園だより

令和５年６月１日

社会福祉法人新田保育園
園長　大西　陽子

友だちと一緒だから

今年も５歳児ぞう組が、５月２４日から２泊３日の日程で飯能合宿に行きました。３日間とも天気に恵まれ、１日目に登った多峯主山（とうのすやま）の山頂からは富士山がくっきりと見えました。「きれいだね」「たいへんだったけど、のぼってよかったね」と子どもたち同士での会話が聞こえます。下山途中の池では“鼻をつまんで池の周りを 7 周すると何かが起きる”という言い伝えがあり、何が起きるのだろうとドキドキワクワクしながら一緒に走ると、その夜“火の神様”が現れ、キャンプファイヤーに火をつけてくれました。

「みんなが走って私を呼んだのだろう？」という言葉に、目を丸くして顔を見合わせる子どもたち。『何かが起きた！』とみんなが確信した瞬間でした。２日目は川あそび。自分たちで作ってきた船を流します。「こっちはながれない」「あそこのまんなかが、スピードはやいよ」「あっちはいしにひっかかるから、このへんからながすといいよ」１人の困りごとに、近くの友だちが提案する姿がありました。また、生き物もたくさんいて１人がカニを見つけると「ぼくだってみつけたい」と対抗心を燃やしますが、「こういう、おおきないしのしたにかくれてるんだよ」と教え２人で石を持ち上げると、その後は一緒に探していました。その夜『魔女』から“1 人ずつ会いに来てほしい”と手紙が来ました。懐中電灯で道を照らし、順番に会いに行きます。「こわいからいかない」という子もいましたが、「かわいかったよ」「やさしかったよ」「うでわもらえるよ」と声を掛けて励ましたり、何が怖いのか丁寧に聞き出し、どうしたら怖くなくなるのかを友だちが一緒に考える場面もありました。自分が体験した嬉しさや喜びを友だちにも体験してほしい、この思いを共有したい、という気持ちが見えました。３日目の荷物整理。園で生活するよりも管理しなければならない物の数が多いのですが、自分でやり切りたいという思いが伝わってきました。自分のことだけで精一杯に見えても、誰かが困っているとすぐに友だちが駆けつけ「どうした？」と助ける姿や、自分の支度が終わると「てつだってほしいひと～」と声をあげる姿もありました。

普段の園生活の中で、たくさん笑い合い、ぶつかり合い、話し合ってきました。楽しさは共有し合うことでもっと楽しくなり、大変さは共有し合うと喜びや達成感となることを、子どもたちはすでに知っています。だからこそ面白そうなことには友だちを誘い、大変なことや困りごとは一緒に考えて乗り越えようとするのです。一緒に登った山、一緒に見た景色、一緒に楽しんだキャンプファイヤー、一緒に入った風呂、一緒に食べたごはん、一緒に競争した船流し、一緒に会いに行った魔女、一緒に見つけた宝、一緒に頑張った荷物整理、友だちと一緒に過ごしたこの３日間は 1 人では絶対に経験することのできない宝物であり、これから成長する上で欠かせない力の一つに繋がっていきます。　　（文責：斉藤 千鶴子）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
6月	頭シラミチェック	りす組懇談会・避難訓練			幼児（3・4・5）個人面談週間	健康体育			ことり組懇談会					ぞう組荒川探検		誕生会・写真の日	ひよこ・りす組保育参観				健康診断（0・1歳児）									りす組合宿（～7/1）